

新建福岡・NOW

第16号 2017.09.30

発行元
新建築家技術者集団
福岡支部事務局
〒815-0041
福岡市南区野間 3-9-20-4F
[ケイ・プラッツ内]
Tel/Fax 092-541-8128
HP : shinken-fukuoka.net

今年もちゃんとこの時期に、鮮やかな彼岸花が咲いています。みなさまお変わりなくお過ごしでしょうか。前号(15号)は、今年6月の発行でした。その間に開催しました新建福岡支部企画の報告等をお届けします。

5
20, 21

5月例会「熊本地震に学ぶ2」

場所：熊本県益城町、小川町、熊本市 等



はじめまして、新会員 ののデザイン 渡邊美恵と申します。
福岡支部5月例会「熊本地震」に学ぶ2・熊本視察について報告します。

1日目は、益城地区からのスタート。現地で設計事務所をされている zeroes ジカルガーデン田尻さんに、震災から今までの状況と、発表された益城町都市計画の概要をご説明頂きました。行政のつくるプランに、地盤特性が建物にどのような影響を及ぼすのか体験され、そして住民の暮らしに寄り添うことのできる田尻さんの様な建築家の視点が、今こそ必要だと感じました。

次に、「くまもと型復興住宅」実現の経緯を、熊本工務店ネットワークの会長、久原さんからご説明頂きました。熊本地震木造応急仮設住宅で実現できた「良い性能の木の家 Ua 値 0.5」からの流れから、復興住宅を県産材活用や深い軒の出のあるプラン採用、木造平屋 22.3 坪(耐震等級 3、Ua 値 0.46)で 1000 万円、オプションのセルロースファイバー断熱材、樹脂サッシ仕様で 1100 万の価格を実現されています。被災者の為に何が大切なのか、行政の判断力、地域に根差す工務店としての使命と強い決意をもったリーダー力と JBN、全建総連のネットワーク力で実現されている事、木の住まいづくりにかかわる者として、感動しました。



そして歴史的町並みが残る小川町にて、今回の被害と今後について、熊本高専特任客員教授の磯田先生からお話がありました。伝統ある町並みを地域の方々と共にどう残していくのか、建築的学術的見地を基本に、根気と愛に溢れた活動内容に、地域社会に必要とされる建築家の大切な役割を感じました。

2日目は、川尻町にて古川設計室古川先生に、伝統構法で建てられた木造建築の地震後の状況と修復状況を伺い、伝統構法建物の懐の深さを改めて感じました。様々な検証と実践、理論的なお話は、これからの木造建築にかかわるすべての人達で共有すべきだと感じる貴重な内容で、自身も更に深く学びたいと思いました。



講師の方々も被災されている状況の中、技術に裏付けられた力と大切なものに前向き取り組みられる強い姿勢に、建築という仕事の使命と役割を改めて感じました。口々に語られた外部ネットワーク支援に力をもらったという言葉、今回の研修参加を通して私自身ネットワークの力に希望を感じる事が出来ました。参加させて頂き有難うございました。

(報告：渡邊美恵)

熊本市在住の新建メンバー西村さんにもレポートを書いてもらいましたので、改めて紹介できればと思います。



今回の北部九州豪雨では、地形が変わる程の災害の大きさに茫然としましたが、取り敢えず何かしなければいけないと思っていました。

始まりは、11日の片井さんからの被害報告のメールです。そのメールに災害ボランティアに行くつもりと返信したところ、鹿瀬島さんも直ぐに賛同してくれました。この段階では数人でボランティアセンターに行くだろうと思っていました。

その日の夜、日本民家再生協会の理事で大工志の会代表の池尾さんから電話がありました。「いち早く現地に駆けつけた熊本県西原村の藤本さんから、大変な状況のため手伝って欲しいと電話があったけど民家再生協会に呼びかけていいの？」と。民家再生協会は5年前のうきは市田籠地区での水害ボランティアに参加したことがあるので呼びかけようと話しました。元よりわたしも行くつもりだったので、翌日の朝に藤本さんに電話して、ボランティアに行く旨を伝え、その内容を新聞記事と共に新建のメールに投稿したのが12日。そしたら、藤本さんをよく知り、池尾さんの師匠でもある悠山想の宮本さんが動いていて一気に広がりました（熊本の地震でも同じ動きでした）。宮本さんは以前に比良松地区で民家再生の仕事をしており地元パイプがあったからです。

そして13日、麻生建築&デザイン専門学校の授業で呼びかけたら6人の学生が直ぐに手を上げ、あれよという間に新建、日本民家再生協会、大工志の会、麻生の学生によるボランティアが実現したのでした。

15日の土曜日は、新建から鹿瀬島、片井、巻口、松尾、宮本、照井6名と日本民家再生協会、学生11名の計17名で主に水に浸かった家具、建具等の搬出の手伝い。16日の日曜日は、新建から片井、渋田、浜崎、宮本、照井、坂口、月成7名と日本民家再生協会等9名の計16名で倉庫にたまった泥の搬出と前日と同様に水に浸かった家具、建具等の搬出の手伝いでした。宮本さん、夢木香の松尾さんがダンプトラックを持って行ったので機動力があり、とても感謝されました。

ボランティアセンターを通さない活動だったので比較的長時間に地域の要望に即応できたと思いますが、同じ被災地でも私たちには見えない地元の微妙な関係があったりして色々と考えさせられた事もありました。

同じ思いを持って直ぐに行動出来る仲間がいることはうれしい限りです。

(報告 / 照井善明)



ワークショップ形式で会員参加の「Sビル改修計画」がスタート

対象のSビルは、福岡市中央区にある1972年竣工の築45年のRC造6階建て、30戸のアパートである。立地条件の良さとEV付き、増圧による直送式給水（改修）であることから、空室率は低いが、新耐震基準以前の建物であり、耐震診断、耐震補強の必要性もあり、全戸、2DKタイプで、住戸面積は40～54㎡であり、狭い洗面所が脱衣室を兼ね、洗濯機もバルコニーに置かれている等の問題もあり、改修計画が求められている。この建物は会員が関係している物件で、ワークショップ形式で改修計画を検討するモデルとして相応しいということで、今年の3月幹事会で代表の片井さんから提起されて始まった。

まず劣化診断として、塗装メーカーの協力を得て、コンクリート中性化試験と既存塗膜引張強度試験を実施した。参加した方に、試験方法の見学と、目視・打診による調査を実施した。主要構造部はモルタル



塗りであったため、コンクリートの中性化はあまり進行してなかったが、吹放し廊下手摺などはかぶり厚が少ないこともあり、爆裂が多数発生していた。2回目は補修材料メーカーの協力を得て、補修方法の検討を行った。3回目は「集合住宅維持管理機構」で活躍されている大槻博司さんの講演が福岡市で行われたので講演を聞き、講演の前にSビルを見ていただき意見を貰った。今後の展開が楽しみである。

(報告 / 新谷肇一)

仕事を語る会もはや4回目。新建福岡の会員が、日常どのような仕事をしているのか、何を大切にしているのか等等。語り部となって、いろんな切り口で展開されるこの会は、毎回、嗚呼納得！の、個人的にも楽しい企画です。さて、今回のお話は……。

*第1部 大浦慎平さん「私のお仕事 社寺建築」

代々、社寺建築に携わってこられた13代目。先代の建造されたお寺の改修から、新たな本堂の計画、設計、施工まで、写真と図面でお話しいただきました。あの美しい軒が、こんな風に組み立てられている。図面しか見た事の無い私には、日本人の知恵と技のすごさに、改めて、感服。大浦さんの仕事に対する、真摯な姿勢も、お話ぶりににじみ出ていました。

5月例会「熊本地震に学ぶ2」に参加、当日盛り上がった懇親会で、入会表明をしてくださった大浦さん。力強い仲間が、福岡へ。



*第2部 照井善明さん「タクラマカン砂漠を越えて」



見果てぬ地、新疆ウイグル。そこを、飛行機、バスを乗り継いで、足跡を残してきた照井さん。なぜその地に向かったのか。子供のときから夢中だったかの地の歴史が、照井さんの夢を呼び寄せた。そんな、お話しで始まったイントロダクションは、まるで某テレビ局の美術特集番組を見ているようでした。砂漠の中を延々440キロ。過酷なこの時間を体験した人だけに与えられる、景色と空気。できるなら、見せていただいた写真の数々を、1ページずつ、ゆっくりめぐりたいと思いました。

(報告 / 矢野安希子)

例会 延藤安弘氏の「げんげんげんきな幻燈会」 ～まちを育むスピリットが人間と空間にすりこまれている

ブルガリア・ギリシャ旅日記～

会場：アイカ工業福岡支店 会議室

新建ふくおかの飛び込み企画として久しぶりに延藤安弘先生の幻燈会を開催した。2月に最初にブルガリア・ギリシャに行かれたときは、毎日のようにfacebookに写真と旅日記をアップされ、その内容に圧倒されていたので、今回2度目の8月の旅を終えての報告を聞くのはとても楽しみであった。



これまで何度も絵本を題材に都市の歴史や人間の生き方を読み解き、哲学的示唆を込めた先生の思いを発信されてきたが、今回は難民問題という民族の歴史の複層的テーマを抱えていただけに、先生が蓄積されてきた意味深い知見を引き出しながら多くの人々が共に生きることの心髄を問うものであった。



今回の幻燈会で改めて学んだことは、そのような深い探究のツールとして絵本を用いることにより年代を超えた思いを共有できること、1冊の絵本が実に多様な解釈を経て人生観を語ること、そしてLiving together という実にシンプルなキーワードが心に残る共有概念として人々の行動を起す種と成りうることである。幻燈会全体を通して、改めて延藤先生のカメラワークの良さ、学際的博学さ、年齢を感じない元気さを実感したひとときであった。(報告 / 浜崎裕子)

今年の5月に出版した「在来軸組工法住宅の設計手法」より、皆さんの実務に役立つトピックスを抜粋してお届けします。第1回目は構造チェックの基本的ルールについてです。

**4号建物の構造チェックは、
3個の簡単な計算 と 8個の仕様規定。そのすべてを確認**



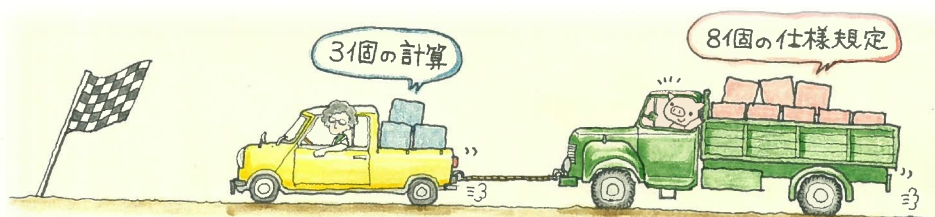
<計算>

1. 壁量の確保
2. 壁の平面バランス計算
3. 柱頭、柱脚の接合方法

<仕様規定>

1. 基礎の仕様
2. 屋根葺き材等の緊結
3. 土台と基礎の緊結
4. 柱の小径等
5. 横架材の欠込み
6. 筋交いの仕様
7. 火打材等の設置
8. 部材の品質と耐久性の確認

全ての項目についてチェックします



(株式会社川崎構造設計 川崎薫)

福岡支部 今後の企画予定

- 10月24日(火)
新建福岡支部 支部総会
- 11月上旬
「第5回仕事を語る会」
- 今冬
新建ゼミ2017
- 2018年
4号建物の連続講座 等

※詳細は福岡支部HPで随時掲載予定

www.shinken-fukuoka.net

新建福岡支部のHPも

ぜひご覧ください

- ・イベント案内
- ・イベント報告 (写真多数)
- ・被災地支援活動・視察報告
- ・「新建新建 NOW」バックナンバー
- ・会員紹介 等

こちらも充実の内容となっています

新建福岡 支部総会のご案内

日時：2017年10月24日(火) 19時～
終了後、懇親会を行ないます

会場：アミカス 研修室B

みなさまのご出席をお待ちしております

編集後記

本号もたくさんの内容を紹介することが出来ました。ご協力いただいた皆さまありがとうございました。今回の紙面は、新しく会員になられた方（渡邊さん・照井さん・大浦さん）のご紹介の場にもなったので良かったかなと思います。（中島）

（原稿とりまとめ：中島 レイアウト：月成）